



1873→2024

たすけあい かたりあい わかりあい しんじあい

高鷲小学校だより

令和6年度(r7)1月号

令和6年12月24日
羽曳野市立高鷲小学校
発行：校長 小島 博之

高鷲っ子が見つける「真の目的」

12月2日の朝に大なわ記録会がありました。11月から体育朝会や休み時間に各学級で練習に取り組んできました。はじめは回転する縄に上手に入れずに引っかかっていた子が、周りの子の掛け声に合わせて入れるようになり、縄の回し方のテンポや入るタイミングの呼吸を合わせるなど、やるたびに進化していく高鷲っ子。その協働の結果、記録会では1曲の制限時間内に、リズムよく順に入る1・2年生が20～30回、ダイナミックに飛ぶ3・4年生が100～200回、高速連続にチャレンジの5・6年生が200～300回と、それぞれの目標を大きく上回る達成感を味わえ、寒空の運動場に拍手がこだましました。秀逸なのがまとめの体育委員の言葉「今日で大なわ大会は終わりますが、これからも体力向上に努めましょう」。大なわができることだけにとどまらず、体力向上を目的としているんだと、あらためてその真(芯)の目的に気づかされました。

この言葉の効果でしょうか。それまであまり活用が見られなかったセンダンの木の前の「なわとびボード」から、12月はリズムカルな跳ねる音がよく聞こえるようになりました。「見てみて〇回飛べるようになってん」「二重飛びもうちょっとでできそう～」など、なわとびが上手になりたいという思いで頑張っているのですが、着実に体力向上につながっています。12月になって急激に寒くなりましたが、冷たい空気と闘いながら、心と体を温め合い気力と体力を養っている高鷲っ子を見て、芯からほっこりします。



◆「たかわし」を大切に～こんな時だからこそ、一層【たかわし】の力を感じます

私は毎日学校を回りながら、あいさつやおしゃべりのついでに窓開けやトイレのスリッパ並べなどしていますが、たくさんの子がお手伝いをしてくれていつもとても助かっています。12月某日下校時に少し遅く出てきた4年生女子3人が担任の先生との会話で「1年生のスリッパ並べてくれてたん?」「うん、男子のも並べといた」とさらっと。素敵です。

私事で12月14日に肩手術後18日から出勤しましたが、所々窓が開いていたりスリッパがそろってたり、誰かがやってくれたんだと思いながら、もう少し整えていると、横からさっと手が出て一緒にやってくれた子が。また23日の下校時に、校長室前の掲示物を拭いていたら、「片手でしてて…私がやるよ」と雑巾をとって丁寧に拭いてくれました。あまりにも粋な高鷲っ子の【たかわし】を体現に、手を合わせました。



◆1月行事予定(2月主なもの)は裏面に掲載しています。ご確認よろしくお願ひします。

2学期も運動会ははじめたくさんのご協力のもと様々な活動ができました。ありがとうございました。

- ・2月の参観・懇談は、各学年別で日を設定して実施します。日時が決定次第お知らせします。
- ・令和6年度卒業式は3月18日(火)9:30受付10:00開式です。(6年生・5年生登校)
- ・令和7年度入学式は4月4日(金)9:00受付10:00開式です。始業式は4月8日(火)です。
- ・令和7年度運動会は、近隣の保育所や幼稚園・市の行事等に配慮して、市内小学校ができるだけ実施日を合わせるよう調整しています。このことから令和7年度は10月18日(土)実施予定です。詳細につきましては次年度改めてお知らせいたします。ご理解ご協力よろしくお願ひいたします。

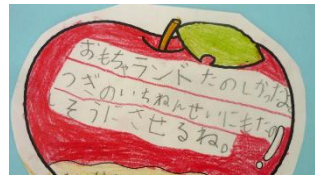
自分たちでつくったものが、人をつなぐ

12月10日に体育館で4年生とたんぽぽ学級との交流がありました。4年生が考えた「空き缶積み」や「猛獣狩りに行こうよ」で大盛り上がり。グループで高さや安定の両立を相談し合う姿、クラスで見本を見せてわかりやすくルールを説明する姿とともに、司会の「これからもお顔を見て仲良くしましょう」との結びの言葉。素敵な交流の時間をつくりました。

12月11日には体育館で2年生主催の「おもちゃランド」にお客さんとして1年生をご招待。生活科や図工の時間で作った自慢の仕掛けを並べる12種類の「お店」を仕切る2年生と、カードをもってワイワイとまわる1年生。体育館は呼び込みと歓声で大熱狂。こちらも素晴らしいのは2年生が1年生が上手にできるように横について教えてあげたり、成功しやすいようにうまく調節したり、相手のことをよく考えている姿が見られました。

1年生のお礼の感想には「次の1年生を楽しませる」という素敵な宣言が。来年も楽しみですね。

人が人をつなぎ、楽しい時間をつくるのですね。



◆「たかわし」を大切に～「みんな大切な高鷲っ子 みんなで見て みんなで育てる」

12月13日の9時ごろに、校長室の電話が鳴りました。高鷲中学校の山田校長先生からです。「今朝8時くらいに、高鷲中学校前の府道の電器屋さんのある横断歩道を、3・4・5年生くらいの男子3人が登校時でわたっていた。その際に、横断歩道手前で止まってくれていた車に向かって、その子たちは深々とお辞儀をしていた。その素敵な姿を見て、清々しい気持ちになった。これは早く小島校長に伝えたいと思い早速電話した。ぜひ子どもたちに伝えてあげてほしい。」

子どもたちの力+善い行いの力が、人を動かすこと(感動・行動)ができる。いいことに出会って今日もよかったなと思える。その場にいた人もその話を聞いた人もその姿から「自分もこんな生き方がしたいな」と学べる。お辞儀をした子が誰なのかわかりませんが、それこそ「通りすがりの」高鷲っ子が、多くの人の生きる力になっています。感激です。

また、「人は必ず見てくれているんだな」とも感じました。この場面だけでなく、高鷲っ子はきっといろんなところで善い行いをしてくれているのだと思います。もしかしたら、いいことをしたいと思っても、恥ずかしいなとか、誰かにどう思われるのかななど、いろんな感情からなかなかすぐにはできないこともあると思いますが、少し勇気を出して、実際にやってみることで、その行いからたくさんの大きな力が生まれるのです。シンプルかつ究極のアウトプットですね。

高鷲っ子が学校や家庭だけでなく、地域からも育ててもらい、地域や世の中にとっても大きな力になることに、心から感謝し、嬉しく思い、誇りを感じます。